

学校紹介

初の「在学生保護者に対するオープンキャンパス」を実施
大阪府立大学が地域に開かれた大学祭「友好祭」に合わせ

大阪府立大学（大阪府堺市、辻洋学長）は五月二十日（土）、同市中百舌鳥キャンパスで「在学生保護者に対するオープンキャンパス」を初めて実施した。

学びの環境の特色やキャリア支援という観点から大学の概要を知ってもらうことで、教職員と保護者が手を結んで在校生の応援団となり、親密な相互関係を構築するきっかけにするのがねらい。当日は、大学側の予想を大きく上回る約四〇〇人が参加し、教員の発表や在校生の体験談に熱心に耳を傾けた。また、保護者らはキャンパスツアーにも参加し、緑豊かで広大な中百舌鳥キャンパスを歩いて体感した。

就職活動を控えた三・四回生の保護者を対象にした「説明会」はどの大学でもあるが、大学生生活にまだ慣れていない年度当初に一・二年生の保護者を対象にした取り組みは珍しい。初めに、「Uホール白鷺」でシンポジウムが開かれた。

開会挨拶で吉田敦彦副学長（学生センター長）が「先生方と交流することで、皆様が大阪府立大学の応援団の一員になっていただくよう願っています」と呼びかけた。

次いで、横山慶一・キャリアサポート室長が「大阪府立大学のキャリア支援の取り組み—今、社会で求められている人材像—」と題して報告した。

横山室長は「キャリアサポート室は、就職支援だけではなく、学生のサポートをいろいろ行っている。修学支援とキャリア育成が二本柱である」としたうえで、豊かな就学環境と、主体的



報告した学生3人

な学びができる学習環境によって、やる気・愛着のある学生を育成していることや、「入学時の高いモチベーションが下がらないように卒業まで維持していくことがポイント」と強調。具体的には初年次教育（ゼミ）やアクティブ・ラーニングの体験的な学びなどを紹介した。同室長は卒業・修了生の就職率が高レベルの九八%前後だと報告したうえで、「企業が求める人材は、専門的な知識だけでなく、論理的思考力、課題発見・解決力、コミュニケーション力など。本学独自のワクワク人材、ハイ・エンゲージメント人材の育成をこれからもめざしていく」と決意を述べた。

次いで、高橋哲也副学長（教育・入試担当）が「なぜ府大生はこんなに伸びるのか？—府大の教育の特徴—」と題して報告した。高橋副学長は「初年次ゼミから卒業研究までの体系的な教育課程のほかに学生の成長をサポートするさまざまなプログラムを提供している。府大生は真面目と言われているが、面白くてユニークな活動をしている学生がいっぱいいる」と強調した。

このあと、学生のロールモデルとなる三人の学生が登場し、大学生活で得た体験を語った。右大輝君（現代システム科学域四年／副専攻「地方再生（CR）」）は、東日本大震災の被災地支援ボランティア等を体験したことで、防災の重要性を痛感。全国公立大学ネットワークの防災部門のリーダーの一人として関東・東北豪雨泥かきボランティアなど各地で活動していることを報告した。



辻学長が保護者にメッセージ

藤野紗耶さん（工学研究科博士前期課程一年）は、文部科学省のサイエンス・インカレで、「私と人工知能が創り出す夢のデジタル絵本—阪和線—」の口頭発表で、文部科学大臣表彰を受けた活動などを発表。「府大の先生方は、学習の仕方で困った時、すぐに手を差し伸べてくれた。親切なので、どんどん相談してほしい」と強調した。

長野将吾君（工学研究科博士

後期課程一年／リーディングプログラムコース三年）は、文科省の留学支援プログラム等の補助を受け、海外留学によって英語を習得。オムロン社主催のオムロンコトチャレンジ オーディエンス賞など様々なイノベーションに挑戦し、成果を上げていることを報告した。

最後に、辻学長が「本学の理念、コンセプトは『世界に翔く地域の信頼拠点をめざして』。地域に開かれた四六万平方メー



キャンパスツアー

トルもの広大なキャンパスと少人数で恵まれた教育環境がある。教職員は学生に親切で手厚い支援を心がけている。保護者の皆様と手を携えて学生たちが世界に大きく羽ばたく後押しをしていきたいと思います」とメッセージを送った。

このあと、保護者らは別室に移動し、教員と学生らと交流。「通常の大学が採用している学部・学科と、大阪府立大学の学域・学類とどのようにちがうのか」「一年間の海外留学を希望しているが、インターンシップなどの就職活動に影響しないか」などの質問が出され、教員らは丁寧に答えていた。

参加した保護者の一人は「学生への受入体制に深く感銘した。また、実際に学生生活を送っている学生の生の声を聞けてよかった。この話を子どもや他の在学生にも聞かせてあげたいと思った」と感想を述べていた。